

基本方針

- ・患者さまの意思を尊重し、信頼される医療を提供します。
- ・地域中核病院として、高度な医療と救急医療の充実に努めます。
- ・急性期病院として関係機関と連携し、地域医療の充実に努めます。
- ・地域がん診療連携拠点病院として、機能の充実強化に努めます。
- ・臨床研修指定病院として、地域医療を担う優れた医師の育成に努めます。
- ・地域医療支援病院として、地域の医療人の教育・研修の充実強化に努めます。

臨床研修は、医師が、医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割と医療チームの一員であることを認識し、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けると同時に医療安全への配慮を身に付けることを基本理念とする。

- 研究理念
医師臨床研修
基本方針
- ・基本的知識・技能・態度を習得する。
 - ・患者中心の医療を理解し、実践する。
 - ・チーム医療の重要性を理解し、実践する。
 - ・医療安全を深く理解し、実践する。
 - ・医療人としての倫理観を養成する。
 - ・地域医療の重要性を理解し、実践する。

公立藤岡 総合病院

地域医療連携だより



新年を迎えて

組合事業統括兼病院長 石崎 政利



新年おめでとうございます。

皆様におかれましては穏やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は台風による豪雨災害の発生や、医療安全に係る大きな問題が取り上げられ、災害対策や医療安全対策の重要性をあらためて認識させられました。医療制度も2025年を見据えた体制に向かい、今までになく医療環境が大きく変わってきております。

当院では、地域医療構想の策定が始まったことを機に、昨年11月から地域包括ケア病棟を稼働させました。当院は地域中核病院として、急性期医療をさらに強化するとともに急性期以降の患者さんの需要に応え、将来に向け地域で完結できる医療提供体制を構築していきたいと思っております。

当院が平成20年から取り組んできた病院機能再整備計画も着実に進み、昨年3月に医療の質向上を目的に卒後臨床研修機能評価および病院機能評価を受審し、また昨年11月に新病院の実施設設計も議決され、新病院建設もあと一歩というところまで来ています。

今年は新しい公立藤岡総合病院の仕上げの年になります。今後も、安心・安全・納得をキーワードに医療の質を高め、地域から信頼され選ばれる病院を目指し、地域医療の確保に努めてまいります。

皆様のご理解ご支援をよろしくお願いいたします。



地域包括ケア病棟(東6階病棟)を開設しました

当院では平成27年11月より、病状が安定した患者さんに在宅や介護施設への復地帯帰に向けた医療や支援を行う病棟を東6階に開設しました。

●地域包括ケア病棟について

急性期治療(手術直後や発症後早期の治療が必要とされる時期)を経過し、病状が安定した患者さんに対して医師や看護師・リハビリスタッフ・医療ソーシャルワーカー等が、患者さん・ご家族と協力し、在宅や介護施設への復地帯帰に向けた医療・支援を行い、安心してご退院いただけるようサポートをさせていただきます。

退院後の生活や介護サービス、施設等の利用、入所等に向けた支援をさせていただきます



新病院建設事業の進捗状況について お知らせいたします

日頃、病院運営につきまして、地域の皆様にご理解ご支援を賜り誠にありがとうございます。

当院は、入院棟を附属外来センター敷地内に新築移転する計画を進めておりますが、平成27年11月に行われた多野藤岡医療事務市町村組合議会において、建設工事費についての予算が承認されました。

平成28年1月に施工者との契約を締結し、平成29年の秋の開院に向けて、本格的に建築工事がスタートいたします。

来院者様および地域の皆様には何かとご迷惑をお掛けしますが、安全には十分留意して工事を進めて参ります。

今後も地域から信頼され選ばれる病院を目指し、地域医療の確保に努めてまいります。引き続き皆様のご理解ご支援をよろしくお願いいたします。



2月
から

外来センターのMRI装置が 新しくなります

放射線診断科医長 神宮 晶子

磁場強度が従来の1.5T(テスラ)から3.0Tと2倍になり、画像がより向上し、検査時間もある程度短縮されます。

それにより、従来息止め不良だったり、体動により診断困難だった患者様についてもある程度は診断性能も向上すると思われ、より多くの検査ができるようになります。

また、当院では検査中に音楽と映像でより快適に検査ができるIn-Bore Experienceという最新装置も導入予定です。

磁場強度が上がったことにより、以前にも増して金属等のチェックが厳しくなりますが、ご理解ご協力をお願い致します。



当院指定の同意書が変わります

放射線室 櫻井 敏男

平成28年2月15日より当院指定の下記書類を変更することになりましたので、お知らせいたします。

- ①MRI検査 問診票・同意書 ②造影(CT・尿路・血管)検査問診票・同意書
- ③診療情報提供書(検査依頼書)

コード造影剤使用時の腎機能チェックやMRI検査時の体内金属チェックは重要な確認事項でありますので、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

第7回多野藤岡MC協議会主催

藤岡地区PSLSコース(脳卒中病前救護コース)が 藤岡総合病院において開催されました。

副院長(Course Medical Director) 甲賀 英明



10月25日に藤岡総合病院で藤岡地区PSLSコースが開催されました。11人(医師5名、看護師3名、救急隊3名)が参加し脳卒中傷病者に対する病院前救護の標準プログラムを受講しました。



コースの実技指導



班別指導

病院前救護に対する メディカルコントロール～救急症例検討会～

救急センター統括部長 井上 雅治



心肺停止や重症外傷の治療成績は、発症後速やかに行われる処置の適切さに大きく依存しています。これを向上させるには医療機関収容までの「病院前救護」にも目を向けることが重要です。

多野藤岡地域の基幹病院である当院は、救急隊が行う病院前救護に対するメディカルコントロール業務で重要な役割を求められています。具体的には救急要請ピッチを用いた救急隊と医師とのオンラインメディカルコントロール、救急隊の活動に対する事後検証、救急救命士の病院実習などです。

また当院では地域の救急業務に関わる消防職員、藤岡保健所職員、医師会の先生方と一緒に、救急症例検討会を年6回開催しています。心肺停止などの重症例、救急隊の対応困難例などを選択し、救急隊の現場活動(救急隊の業務に関すること、傷病者に対する観察・判断・応急処置等)を



評価・検討し、フィードバックする場として役立てています。救急隊員にはいつも活発な発言で会を盛り上げていただいております。顔の見える関係を構築する上でも有意義な症例検討会となっております。

このような活動を通じて、地域の救急医療水準の向上に貢献し、一人でも多くの患者さんが社会復帰できるよう、関係機関の方々と力を合わせて努力して行きたいと考えております。今後ともよろしくお願い致します。